

神戸南京町発祥、中華『皇蘭』のチェーン化推進 中華まん・点心類の卸販売、ネット通販にも注力

株式会社 皇蘭（代表取締役会長） 田鍋仁章



神戸南京町中華街で、かねてより評判のお店『皇蘭』 関西圏中心に、『皇蘭』ブランドで多店舗展開を期す 創業間もなく開始した総菜や点心類の卸販売も好調

神戸南京町中華街、
本格中華『皇蘭』開店

当社『皇蘭』は昭和34年、北海道から、ここ神戸にやって来た父・田鍋恭治により、『北海食品』の屋号で立ち上げられた商いをそのルーツとします。そして、その3年後の同37年には、株式会社化を果たしています。

北海食品は当初、北海道ゆかりの乳業大手と組んでアイスクリームや



牛乳類の卸販売を手がけていました。その後、酒造大手との間で取り引きを結び、酒類の卸販売にも進出。さらに飲料水や洋菓子の販売などへと、事業領域を広げていきます。

社業は、比較的堅調に推移していったそうです。しかしながら恭治の心のなかには、ある懸念も…。単にモノを仕入れ、売っただけの商いに限界を感じるようになった、とか。メー

カー機能、飲食サービス機能を有してこそ、新しい未来も拓けてくる、と考えたようです。

そして創業から十数年を経た昭和47年、中華そばなど麺類の製造を開始。生協（コープ）などへの販路を築く一方、自らラーメン店経営への道へと乗り出します。『北海ラーメン』の名でフランチャイズ事業を開始。さらに同53年からは、『寿司つ子』の名で寿司店フランチャイズ事業にも参戦。神戸市内・兵庫県内を中心に、店舗展開を進めていきます。

続いて昭和55年、神戸市の主導によつて再整備、観光スポット化が進められつつあった南京町中華街に、自前の店『皇蘭』を開店。本格的かつ創作心にあふれた中華メニューによつて、多くのお客様を呼び寄せていきます。『皇蘭』開店は、当社の歴史において最も大きな転機となる出来事でした。



総菜・点心類卸販売——
主力事業の一つに

メーカー機能のさらなる強化を期して、昭和58年より中華包子や点心、総菜類の製造を開始。自前店舗での消費とともに、スーパーマーケット大手や量販店大手、有名旅館などへと販路を開いていきます。また豚まん、神戸牛まんなどを中心に、鉄道駅売店や高速道路サービスエリア売店、空港売店などへ、お土産品としての提供も。当社主力事業の一つへと成長を遂げています。

私の入社は平成6年。翌7年には、あの阪神淡路大震災が襲います。幸いにも本社工場、自前店舗、フランチャイズ店舗も含めて、比較的軽微な被害ですみました。立ち直りもかなり早かったように思います。

その後、平成12年には、新たなラーメンフランチャイズとして『山神山人』を立ち上げます。関西圏に加え、東北・仙台などにもご縁があつて出店。全国的なチェーンへと育ってきています。私が取締役営業部長職、専務取締役職に就いていた平成10年代後半が、出店全盛期だったように思い



ます。忙しかつたけれども楽しかつたと、つくづく感じさせられます。

神戸南京町『皇蘭』、 チェーン化推進

神戸南京町中華街『皇蘭』の開店から十数年を経た平成5年、JR新大阪駅構内に『皇蘭』2号店（大阪市淀川区）を開店。その後も、神戸三田プレミアムアウトレット店（神戸市北区）、京橋店（大阪市都島区）、天神橋筋店（大阪市北区）、みのおキーズモール店（大阪府箕面市）を次々に開店し、チェーン化を図ってきました。

立地や客層などにあわせて、それぞれの店舗ならではの独自メニューを組むなど、知恵と工夫を凝らして集客に努めています。

さらに令和6年には『皇蘭』甲子



園球場店（兵庫県西宮市）の新規開店を実現します。

甲子園球場店は、長年の悲願がかなって開店にこぎつけたものであり、当社にとつて近年にないビッグニュースとなりました。『皇蘭』本店で大人気の自家製角煮包子や、味わい深い四川風麻辣炒飯、杏仁フロースンドリンクなど、絶品の数々を野球観戦の合間にお楽しみいただいています。

新社名『皇蘭』のもと、 次なるステップへ

新型コロナウイルス騒動では、他の飲食サービス業と同様、当社も大いに苦しめられました。正直なところ、休業支援金や雇用調整助成金などに助けられ、生き延びてこられた面もあるかもしれません。代表取締役の立場として、心苦しい思いにも駆られたものです。

ただし飲食店運営に限らず、中華まんや点心類、総菜などの卸販売、土産品販売も手がけていたのが幸いした部分も大きかったです。いわゆる〆おうち需要〆を取り入れたことで、売り上げ減少はある程度、食い止めることができたのです。経営にとつて

の事業構造バランスの大切さを、あらためて思い知らされました。

またネット通販に力を入れ、売り上げにつなげてきたことも経営上、大きな意味があったと考えます。

前段でも申し上げたとおり、『皇蘭』甲子園球場店の新規開店を実現するなど、逆風のなかにおいても積極策を実行。いわば攻勢をかけるようなかたちで、業績の維持・回復・発展を心がけてきました。ある程度、成功をおさめてきたものと考えます。

さて、令和6年を迎えて早々、(株)北海から(株)皇蘭への社名変更を断行いたしました。全国区企業への飛躍に



向けて、旧社名につきまといがちなローカル感をどうしても、払拭してしまいたい。神戸に拠点を構える企業として、神戸の人たちから広く親しまれ、愛されてきた店名『皇蘭』をそのまま、使ったほうがわかりやすいし、企業実態にもびつたりと収まる。そんな考えから採用した新社名なのです。

『皇蘭』ブランドの全国への波及・浸透をめざして、経営上の取り組みを進めていきます。とりわけ関東圏には、ぜひ直営のキー拠点を構え、需要開拓に向き合いたいと考えます。これからの『皇蘭』にも、ご期待ください。



田鍋仁章 たなべ よしあき

昭和40年生まれ。神戸市出身。甲南大学経営学部卒。平成2年、地元生協＝コープに入所。同6年、家業の(株)北海へ転職。系列ラーメン店店長など現場経験を積んだ後、本社勤務に。取締役営業部長、専務取締役などを経て同23年、代表取締役社長に就任。令和5年、代表取締役会長へ昇格。同6年、(株)皇蘭への社名変更に伴い代表取締役会長に就任

代表者 代表取締役会長 田鍋仁章
代表取締役社長 千田昌彦

創業 昭和34年

設立 昭和37年

事業内容 冷蔵・冷凍食品の製造販売、総菜の製造販売、食品の加工販売、酒類・米穀の販売、飲食店(『皇蘭』『山神山人』など)の営業・運営、通信販売

所在地 〒657-0852
兵庫県神戸市灘区大石南町2-2-2

電話 078-801-3758

URL <https://www.kouran.com>

従業員数 115名(パート・アルバイト含む)